

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要】

事業所番号	1292200431		
法人名	社会福祉法人マーナーオークガーデンズ		
事業所名	グループホームマザーズガーデン		
所在地	千葉県柏市布施1106-5		
自己評価作成日	2020年 10月 31日	評価結果市町村受理日	2021年 1月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2020年12月18日	書類(文書)審査	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】

日々の生活の中での過剰介護に気を付け、一人ひとりのできることを大切に、ケアの方針を決めている。訪問看護、訪問医療との連携を密にとっており、体調不良時を発見した際には早期に医療と連携することにより重度化を防ぎ、入院が必要となる前に対処するように努めている。自然豊かな施設周りの散歩を習慣としており、室内で行う機能訓練やアクティビティの充実に取り組んでいる。

同敷地内に特別養護老人ホームが併設されていることにより、入居者様の医療ニーズ増大や介護度が重度化した際に、特養へ転居されることもあり、大きな環境の変化なく過ごしていただくことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

「支えあうチームづくり」というホーム目標を掲げ、風通しの良い職場づくり通じて入居者本位のサービスの実践に向けて取り組んでいる。設立以来の管理者、ケアマネ、ユニットリーダーに加え10月からは東ユニットに新しいリーダーが着任し、配膳、洗い物、掃除や体操、アクティビティなど入居者とともに実施するなどして家族の評価も高い。新型コロナへの対応の為、面会や地域との交流などは制約せざるを得ない状況にあるが、こまめに家族と電話等での連絡や、散歩、買い物支援時の工夫などにより孤立しないように努めている。施設全体で運営する感染症対策委員会に参加し対応策をマニュアル化して、感染予防に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目	事業者様で記入 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 社会福祉法人マーナーオークガーデンズ	事務所、ユニット内に法人理念・運営方針を掲示し、昼礼を通して唱和を行っている。また、各セクションで理念に基づいた目標を掲げ、達成に向けて実践している。	理念の唱和はホーム設立以来継続しており定着している。「支えあうチーム作り」というホーム目標を掲げ、風通しの良い職場づくり通じて入居者本位のサービスの実践に向けて取り組んでいる。	新型コロナ禍のために、文書(書面)評価とした。事業所より提出いただいた①自己評価・②追加提出資料・③家族アンケート結果④その他資料を基にメールや電話での確認も行い実施した評価である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ禍で地域との関わりを持つことが困難な状況であるが、通常時は昔から利用していたなじみの店での買い物や喫茶店の利用、地域のボランティアを受け入れ地域の情報を伝えてもらう等して、住み慣れた地域で暮らしていることを感じていただけるよう努めている。	コロナ禍の影響で、地域との交流やボランティアの受け入れなどが困難となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍で地域とのかかわりを持つことが困難な状況であるが、通常時は地域包括ネットワーク会議に定期的に参加しており、事業所と地域の関係性を築いている。また、運営推進会議を通して認知症理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍で運営推進会議を中止しているが、通常時は近況報告の他、施設での取り組みを発信し、いただいた意見はサービス向上に活かしている。	コロナ禍であり本年度は運営推進会議の開催を見合わせている。	コロナ禍の終息が見込めない。オンライン会議の開催なども視野に検討願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導、グループホーム連絡会、地域包括ネットワーク会議を通じて連携を図っており、事故報告や電話相談を行っている。	集団指導、グループホーム連絡会、地域包括ネットワーク会議を通じて連携を図っており、事故報告や電話相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を通じ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、年4回不適切ケア確認月を設け、身体拘束に繋がるケアを抑止している。事業所が2階に位置し、階段があるため電子錠を使用しているが、テラスの周回や日々の散歩、外出により閉塞感を軽減している。	施設全体で事故防止身体拘束廃止委員会を毎月第1火曜日を実施し、ホームからは1名の職員が委員として参加している。不適切ケア確認月を年4回実施中で6月、9月、12月に実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で定めている虐待防止マニュアルに基づき、事業所内で虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。年4回不適切ケア確認月を設け、虐待に繋がるケアを抑止している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や自己研鑽することにより権利擁護に関する制度理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は重要事項説明書をもとに十分な説明を行い、不安や疑問に答え、理解・納得していただいている。改定の際も説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来園時のコミュニケーションを通じて意見、要望を伺い、運営に反映させている。ユニット内で伺った意見、要望は上司に報告し対応している。また、ご意見箱を設置し、頂いた意見を運営に反映させている。	感染症対策上家族の来訪に制約を設けており、意見や要望を聞く機会が少なくなっている為、電話などでこまめに連絡を取っている。家族アンケートを実施し運営の参考としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議を通じ、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、人事考課や契約更新時には面談を行っており、個人の意見を聞く場を設けている。	毎月のユニット会議やリーダー会議で、職員の意見や提案を確認している。また、人事考課や契約更新時には個人面接を行い、意見を聞く場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の中で職員が個々に目標を設定し取り組み、キャリアパスしていけるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術を項目別に手技をまとめたチェックシートを使用し、一定レベルの介護技術の習得に繋がるように努めている。また、会議を通じ認知症理解や病気の知識習得を行っている。法人内外の研修を受ける機会を設け、フィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や各団体で行う交流会、研修会に参加することで、他事業所との交流を深めており、互いに情報交換することでサービスの質向上に努めている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に訪問調査を行い、ご本人やご家族から困っていることを聞き取り、不安の軽減が図れるようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様と同時に、ご家族にも意向を聞き取り確認をしている。お互いに相談しあえるような関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談に対して、ADLや生活面での状況を把握し、本人に適したサービスが利用できるように、他事業所とも連携を図っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月一回行うユニット会議で、本人ができることを見つけ、共に行う、ということを職員は実践している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は少なくなったが、電話での近況報告を行い、協力していただいたりお互いに相談できる関係を作っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、制限を設けているが、親族との面会の場を希望に応じて設けている。	面会は親族に限定し1回15分、ロビーでマスク着用等コロナ対策を徹底しており、面会の機会が少なくなっている。買い物支援やドライブなどの機会を利用して少しでも馴染みの場所を感じていただけるよう努力している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や気の合う方同士が交流できるよう席の配置を工夫したり、体操や掃除を全員が関わり、協調しあえるように努めている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもいつでも相談に応じることを伝えており、同法人の特養へ転居された方へ入居者様と一緒に面会に行くこともある。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続ける為のケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で得た情報を共有し、ご本人やご家族の意向や思いを聞き取り、ケアの方針に繋げている。	日々の会話の中から、気づいたことを、業務日誌に記録し、本人の思いや意向を職員間で共有している。一人ひとりの個性や状況を理解した支援に取り組んでいる。コロナストレスに負けないよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的な会話や、ご家族の面会時に聞き取りを行うなどしてこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、モニタリングしており、ユニット会議や昼礼で必要なケアを話し合い、実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議での意見交換を通して、ご本人の状態やご家族の意向を取り入れケアプランに反映している。	毎日、実践モニタリングを記録し、毎月のユニット会議でカンファレンスを行っている。ケアマネジャーを中心に、本人、家族の要望を取り入れた介護計画を作成している。利用者ごとの目標を意識しながら支援と記録に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化は介護日誌に記録し、介護方法が変更になる際は申し送りノートを活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてご家族やご本人と話し合い、可能な限り対応できるように取り組んでいる。ネットスーパーを利用する等買い物へのニーズにも対応している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で制限はあるが、ご家族との面会の時間を作り、少しでも心が満たされるように工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者様が訪問診療医と契約しており、定期的な訪問診療で状況報告を行い、適切な医療を受けられている。体調不良時には主治医と連携し、適切な指示をしてもらっている。	入居者全員が訪問診療医と契約し、月2回受診している。訪問看護師は週2回来訪し、健康チェックの情報を主治医と共有している。体調不良時には24時間オンコールで適切な指示が受けられる。状況により、精神科医、訪問歯科の受診ができ、医療体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が1週間の様子を訪問看護師へ伝え、必要があれば訪問診療医に報告してもらい、医療を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院情報提供書を作成し、病院へ情報提供している。主治医には病院への診療情報提供書を作成し送付してもらえるように連携を行い、病院の相談員とも連携を図り状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、関係機関と連携を図り、事業所のできることを説明し、できない部分に関しては情報提供している。	重度化した場合について、入居時ホームの指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じ関係機関と連携を取り、本人や家族の希望を踏まえ、より良い選択ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、マニュアルに沿って行動できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内研修に手非常災害のシミュレーションをし、防災に対して理解を深めている。	災害時の避難マニュアルに沿って職員はシミュレーションを行い、咄嗟の行動に生かせるよう努めている。法人の防災計画が有り、定期的な避難訓練を実施し職員の防災意識の向上を図っている。新型コロナ対策についても、感染症対策委員会にて対応策をマニュアル化し、共有している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3ヶ月毎にケアに不適切な言動がないか確認し実践している。日々の関わりの中では否定しないこと、知らない、わからないという対応をしないことに努めている。	職員は一人ひとりの人格・意思を尊重して日々の対応について、自己の振り返りを行っている。笑顔絶やさず利用者と接し、否定的な言葉を使用しない寄り添う支援に取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	催し物を考える際は入居者様の要望・意見を反映できるように写真等を見てもらいながら声掛けし、自己決定できるように工夫している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	「横になりたい」等訴えがあるときは、それぞれのペースに合わせて休んでいただいたり、遅らせて食事をとっていただいたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を確認しながら、訪問美容を利用し髪を染める等している。日々の整容は好みを確認しながら職員が必要に応じて介入している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、食器洗い等、職員と一緒に、できることを行っていたいしている。	利用者と食事の準備、片付け等を日常的に行っている。行事食、出前、外食など変化することも、利用者に好まれている。個々の咀嚼嚥下能力を把握した食事、又口腔ケアを促し、できる限り自分の口で食べられるよう支援をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、体重を把握し記録に残している。摂取量が少ない方には摂取しやすい形態に変更したり、提供方法を工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促しており、必要な方には仕上げ磨きをしている。スポンジブラシ等、入居者様に適した口腔ケア用品を活用している。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄方法を把握し、見守りや定時誘導している。 入居前にオムツを使用していた方でも、排泄物品やケアを見直すことでトイレで排泄できるように支援している。	介護支援システムを導入し、一人ひとりの排泄パターンを把握し見守りや誘導をしている。利用者の自尊心に配慮した支援に努め、自立した生活が維持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すとともに、習慣的に運動を行っている。必要に応じて医師と相談し、薬にて便秘にならないようにコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの湯温に調整する、入浴剤を使用したり、曲を流したりする等、リラックスできるように工夫している。入居者様の希望や体調に応じて入浴日や時間を変更している。	利用者の希望や体調に合わせ、週2回個浴のお風呂を楽しめるよう努めている。好みの湯温や入浴剤、音楽を流したり、職員との会話を楽しみ、ゆったりした気分で入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の習慣や体調に沿い、個々のペースで過ごせるように努めており、リビングでも休息できるようにリクライニングチェアやソファを設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬表ファイルを確認できる状態にしており、変更があった際もすぐに周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれの能力に合った役割をしていただき、達成感につなげられるように工夫している。嗜好品のニーズも確認している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は難しいが、日常的に施設周辺の散歩をしている。	自然豊かな施設の周りの散歩を継続している。外出は減っているが買い物時に車で同行し、本人は車内で待機、職員が買い物を代行し、その後ドライブをして気分転換を図る等、感染予防に配慮しながら対応している	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をしている方は散歩時に自動販売機で好きな飲料を購入している。施設管理している方は、必要時に職員管理のもと買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望のある方は、近況を手紙で知らせる機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、季節ごとにしつらえを工夫している。入居者様同士の関係性を考慮し、座席の配置に配慮している。	リビングは、季節感を出す工夫をし、行事の写真やクラブ活動の作品が飾られている。入居者同士の関係性に配慮して、ソファや座席を工夫している。コロナ対策としてホーム内の清掃、消毒、換気と利用者も一緒に感染予防に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の座席の空間の中で入居者様同士で関係性が作れている。必要に応じて、座席を変更したり、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やペットの写真等、本人が見える位置にしつらえている。仏壇がある方には毎日お茶をお供えしている。	広く清潔な居室では、趣味のピアノの練習を職員が見守る等、「できること」を一緒にと部屋の片づけや、仏壇へのお供えなど日課としている。朝食後、利用者それぞれが、清掃用ワイパーで居室やリビングの掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印となる標識を掲示することで、本人が自分でわかるように工夫している。できることを入居者様に役割として行ってもらっている。		